



北海道札幌啓成高等学校 様

〈道立高校〉 2025 年 全学年で導入

1 学年 8 クラス (320 名)、2 学年 8 クラス (316 名)、3 学年 8 クラス (297 名)

【Brains 導入教材】

1・「AI ICT テスト Pro」 2・「AI Speaking Pro」 3・「AI Writing Pro」
4・「AI 英会話 Pro」

業務削減と 4 技能の統合を目指して (1 学年 竹林 洋平先生)

本校のような多様な生徒が在籍する大規模校では、個々の生徒に合わせたきめ細やかな指導が難しいという課題があります。

特に英作文は、大学入試の個別試験、あるいは英検などの外部試験においても必須かつ重要な分野ですが、実際の授業では、個々の生徒が作成した英文に迅速にフィードバックを与えることが非常に困難です。

こうした背景から、札幌啓成高校では今年度より全学年で「AI ICT テスト Pro」と「AI Writing Pro」を導入しました。これにより、従来教員が担っていた英作文の添削を AI が行うことで、教員の業務効率化に取り組んでいます。

生徒の反応は概ね肯定的で、「使いやすく、自分の弱点把握がしやすい」という声を多く聞きます。本校では、AI 添削によって精度が高まった英文を、生徒が発表原稿として何度も音読することで、スピーキングの練習も兼ねています。

また、「AI ICT テスト Pro」を活用した「1 日 1 長文」という活動も行っています。生徒は毎日必ず一つ長文を読むことで、教科書以外のインプットを継続的に確保しています。この長文読解によるインプット量の増加は、英作文力の向上にも必ずつながると考えています。

このように、インプットとアウトプットのバランスを取ることで、言語の 4 技能「読む・書く・話す・聞く」のうち、特に最初の 3 技能（読む・書く・話す）の学習量と精度を徐々に高めることができてきています。

これらの取り組みは、模試などの結果に少しずつ成果として表れ始めています。 私たちの理想は、「仕事量は減りながらも、今までよりも質の高い学習効果を生み出す」という、一見矛盾する現象を実現することです。

今後も生徒からの意見を参考にしつつ、AI を従来の教員の指導を強力にサポートするツールとして活用していく方法を模索していきたいと思います。

英語（論理表現Ⅰ）学習指導案

授業者 教諭 竹林 洋平

履修単位数	2単位
実施日時	令和7年（2025年）10月30日（木）第5校時 13:25～14:15
場所	北海道札幌啓成高等学校 1年6組 教室
対象生徒	生徒全日制普通科 1年6組（40名）
使用教科書	EARTHRISE English Logic and Expression I（数研出版）

単元名
Lesson13 I'm interested in history.

内容のまとめ
「話すこと[発表]」Ⅰ

「論理・表現Ⅰ」における「話すこと[発表]」Ⅰの目標

Ⅰ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。

1 単元の目標

授業で学習した基本的な語句や文を用いて、歴史的日本の建造物について、論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。

2 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] ・発表に必要な語彙・表現を理解している。 [技能] ・聞き手に自分の考えをよく理解してもらうために、はっきりと話し、時には抑揚や間を使い、聞き手にとってわかりやすく、説得力を持たせる技能を身につけている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、歴史的建造物について、聞いたり読んだりしたことを基に、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話して伝えている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、歴史的建造物について、聞いたり読んだりしたことを基に、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話して伝えようとしている。

3 指導にあたって

(1) 教材観

生徒にとって身近に感じやすい話題から、社会的な話題まで用意されており、単元ごとに様々な話題で言語活動を行うことができる教材である。英語コミュニケーションⅠの教科書は難易度が高いが、そちらの教材とバランスを取るために、論表・表現Ⅰの教科書は簡易な内容の教材を使用している。これにより、英語コミュニケーションⅠで身につけた難易度の高い英文から得た知識と、論理・表現Ⅰの教科書で得た知識を用いて、書く・話すというアウトプット主体の授業に適した教材と言える。

(2) 生徒観

本校は全国模試で好成績を収める生徒もいるが、基礎基本の定着が十分ではない生徒も一定数存在している。総じて生徒の傾向として言えることは、主体的に学習することを苦手としている生徒が多い点である。課題や宿題など教員側から出されたものへの取り組みまでで手を止めてしまうことが多いため、今後は生成 AI 等を工夫して活用して、生徒の学習を伴走しサポートしていける取り組みを模索しつつ、日々の指導にあたっている。

(3) 指導観

様々な学力の生徒がいるが習熟度授業の展開は難しいため、特に「書く・話す」といったアウトプット時に、生成 AI を効果的に活用して、個々の生徒の学力に応じた適切なフィードバックができる環境づくりに取り組んでいる。本時授業は、「書く」という部分において生成 AI を活用した授業となっている。

4 指導と評価の計画(計4時間)

時間	ねらい(■)・学習活動(丸数字)	知	思	態	備考
1	■関係副詞を、関係代名詞との共通点と相違点を比較しながら理解する。 ①教科書・ワークの例文を解説。	○			・単元を通して学習の振り返りは適宜行わせる。
2	■英作文に役立つ英語表現にふれる。 ①教科書の歴史上の偉大な人物についてのリスニングと読解に取り組む。	○			
3 (本時)	■AI(Gemini と ChatGPT)を利用して、関係副詞を用いた情報量の多い英文を完成させる。 ①3つのステップで段階的に英作文を行う。 ②成果物提出。	○	○		
4	■パフォーマンステストの実施 ①3時間目で作成した文章を利用して、ペア・グループで発表する。各グループの代表者による全体発表。			○	

5 パフォーマンステストの実施計画

領域	■話すこと[やり取り] □話すこと[発表] □書くこと
関連するCan-Do リスト	第1学年 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見を交換したりすることができる。
実施内容	・歴史的日本の建物について発表する。 ・建物は実際に存在する建物について、Gemini で情報検索を行い、AI WritingPro で英作文を行い、それをもとに建物を紹介する。
実施方法	1. 発表する歴史的日本の建物について調べる(個人) 2. 生徒同士で発表を行い、お互いの良い点を吸収し合う。 3. ペア・グループにて発表を行う。

■採点の基準

○「思考・判断・表現」についての2つの条件

条件1:その建物が建てられた背景や目的等を説明している。
条件2:なぜ自分がその建物に注目し、発表しようと思ったのかを説明している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	・語彙や関係副詞を使用した表現が適切に使用されている。 ・はっきりと話され、時には抑揚や間を使い、聞き手にとってわかりやすく説明できている。	2つの条件を満たしている。 また、2つの条件に関する具体的、詳細な説明を入れて、効果的に伝えている。	2つの条件を満たしている。また、2つの条件に関する具体的、詳細な説明を入れて、効果的に伝えようとしている。
b	・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使っている。 ・スピードが速い、声が小さいなど、時折理解に支障をきたす部分があるが、概ね内容を理解できる。	2つの条件を満たしている。	2つの条件を満たそうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

[モデルスピーチ①] ※3つの観点すべてで a 評価となるもの

Hello everyone, I am Youhei Takebayashi. Today, I'm going to introduce the historic Japanese building I'm interested in. The Sapporo Clock Tower, **where** you can enjoy seeing a historic clock and learn about the city's history, is a highly recommended landmark. It was built in 1878 as a military drill hall, it is the oldest building in Sapporo. The reason why I chose this building is that I live in Sapporo and I would like people coming to Sapporo to know Hokkaido more. You can learn the history of Hokkaido and feel history through this building. How about visiting the Sapporo Clock Tower? Thank you for your listening. (110語)

[モデルスピーチ②] ※3つの観点すべてでb評価となるもの

Hello everyone, I am Youhei Takebayashi. Today, I'm going to introduce the historic Japanese building I'm interested in. The Sapporo Clock Tower, which you can enjoy seeing a historic clock and learn about the city's history, is a highly recommended landmark. The reason why I chose this building is that I live in Sapporo and I would like people coming to Sapporo to know Hokkaido more. How about visiting the Sapporo Clock Tower? Thank you for your listening. (78 語)

6 本時

(1) 目標

AI (Gemini と ChatGPT) を利用して、関係副詞を用いた情報量の多い英文を完成させることができる。

(2) 展開

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (15)	本日の流れの説明(1分) →本時はプレゼン原稿準備、次回は発表。 →次回の発表のイメージを ALT が実演。 <u>ALTによるデモンストレーション</u> ① アメリカの誰もが知っている有名な歴史的建造物について、生徒に推測させる質問をする。 ② 生徒が回答後に、ALT はあらためてスライドを使って歴史的建造物について英語で説明。説明後に、説明した英文スクリーンを生徒に配布。 <u>Gemini を使って、日本語で情報を収集</u> ① Gemini を使って、「Historic Japanese Building」をピックアップする(2分) ② 自分が気に入った建造物を1つ選ぶ。(5分) ③ ②で選んだ建造物について、必要な情報を収集する(2分) 以下の情報を含むことを条件とする 1. その建物が建てられた背景や目的等。 2. 自分がその建物に注目し、発表しようと思う理由。 3. 関係副詞を使った英文とする。	・本日の流れをプロジェクターで投影して、簡潔に説明する。 ・生徒の回答がなかった場合、②の説明に入り説明。 ・ALT の説明と連動したスライドをプロジェクターで投影。 ・生徒は ALT のモデル英文を参考に英作文してもよい。 ・Gemini へのプロンプトは生徒が各自で作成。 ・基本的に情報の取捨選択は生徒に判断させるが、説明の英文は関係副詞を使用すること、という制約があることを伝える。 ・左記の条件を含む文章になることを念頭に置き、情報収集するように指示。	・行動観察
展開 (30)	<u>NewBrains の ICT WritingPro で英作文</u> ① 英作文(100語程度)を開始(20分) ② AI 添削後、訂正された英文と添削情報を熟読し、清書シートに添削された英文を記入、添削情報で参考になった部分も記入。(10分)	・プロジェクターで残り時間を表示して指示する。 ・生徒の進捗状況を見ながら、適宜時間を臨機変に微調整する。	・行動観察
まとめ (5)	<u>Google Class room で課題提出</u> 成果物の提出。清書シートを写真に撮って提出。	・授業内で提出までできなさそうな場合は、次回授業までに提出しておくように指示出して終了。	・提出された成果物

AI 活用事例1：[1学年 1日1長文]

インターネットの英文を題材に Gemini で作問し、NewBrains の ICT テスト PRO に出力するまでのプロセス

完成した問題(生徒画像が実際に目にする画面)

The screenshot displays a student interface with a reading passage on the left and four multiple-choice questions on the right. The passage is titled "US mothers lose money and jobs" and discusses the "motherhood penalty". The questions are numbered 1 through 4, each with four options (a, b, c, d). A blue arrow points from the passage to the questions, indicating the flow of the test.

インターネットのフリー素材の英文記事(英字新聞記事)

生徒の解答欄

US mothers lose money and jobs

Mothers make less money than other people. This is called the "motherhood penalty."

A study shows that mothers in the US make less than women with no kids and much less than men. Some mothers stop working because childcare costs too much. Others work less hours. They do not get money to save for later. Some mothers are afraid of the future. Their husbands have more money. Some moms feel sad or angry. They work hard but have to stop for their kids. Still, they say that they love their children very much. They just do not think being a mother will be this hard.

Difficult words

motherhood (when a woman is a mother)

penalty (something what hurts you or makes you weak)

kid (a child).

What is the "motherhood penalty"?

a) Mothers get paid more than other people.
b) Mothers make less money than other people.
c) Mothers get free childcare.
d) Mothers work more hours.

According to the study, who makes more money than mothers in the US?

1 設問 解答欄 配点 5

2 設問 解答欄 配点 5

3 設問 解答欄 配点 5

4 設問 解答欄 配点 5

保存 戻る

Gemini が作問した 4 択問題

以下の画面は教員のみ閲覧可能

The screenshot displays a teacher interface showing the test results for the "1日1長文 第40回". The interface includes a table with columns for "大問" (Main Question), "設問" (Question), "全回答数" (Total Number of Answers), "正解" (Correct Answers), "誤答" (Incorrect Answers), "未解答" (Unanswered), and "正答率" (Correct Answer Rate). The results are shown for four main questions, each with four sub-questions. A blue arrow points from the student interface to this teacher interface, indicating the flow of data.

AI ICT test Pro

1日1長文 第40回

クラス別データ

全クラス

1年1組

1年2組

1年3組

1年4組

1年5組

1年6組

1年7組

1年8組

「1日1長文 第40回」の問題正答率一覧 (全クラス)

生徒の解答結果は以下の通り集計されます (生徒個人の結果も閲覧可能)

集計日時: 2025年7月8日 10時46分
5分後に自動集計 (更新ボタン)

正答率

大問	設問	全回答数	正解	誤答	未解答	正答率
1	1	186	165	20	1	88.7%
2	2	186	146	39	1	78.4%
3	3	186	142	43	1	76.3%
4	4	186	130	55	1	69.8%

問題表示

Gemini で作問の手順

1. News in Level というサイトの英文記事の本文を使用。

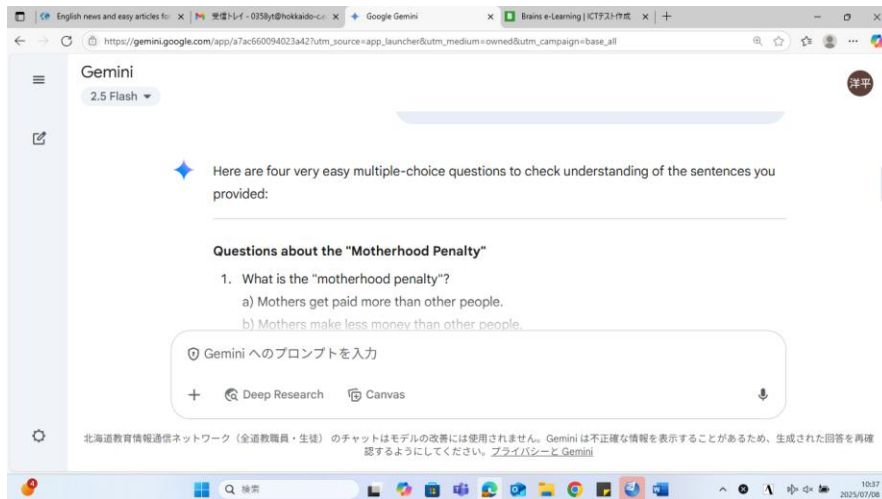
2. Gemini に次のプロンプトを入力

「Would you make very easy 4 multiple questions to check the understanding the sentences below?」

3. New in Level の記事を Gemini に入力

4. Gemini に次のプロンプトを入力

「Would you give me the answers for 4 questions above?」



New Brains の ICT テスト PRO に出力

PDF にした作問データを流し込み、所定の流れに沿って作成。

以下のように、Step1～Step5 までの手順に沿って作成していくと完成。詳細は割愛。

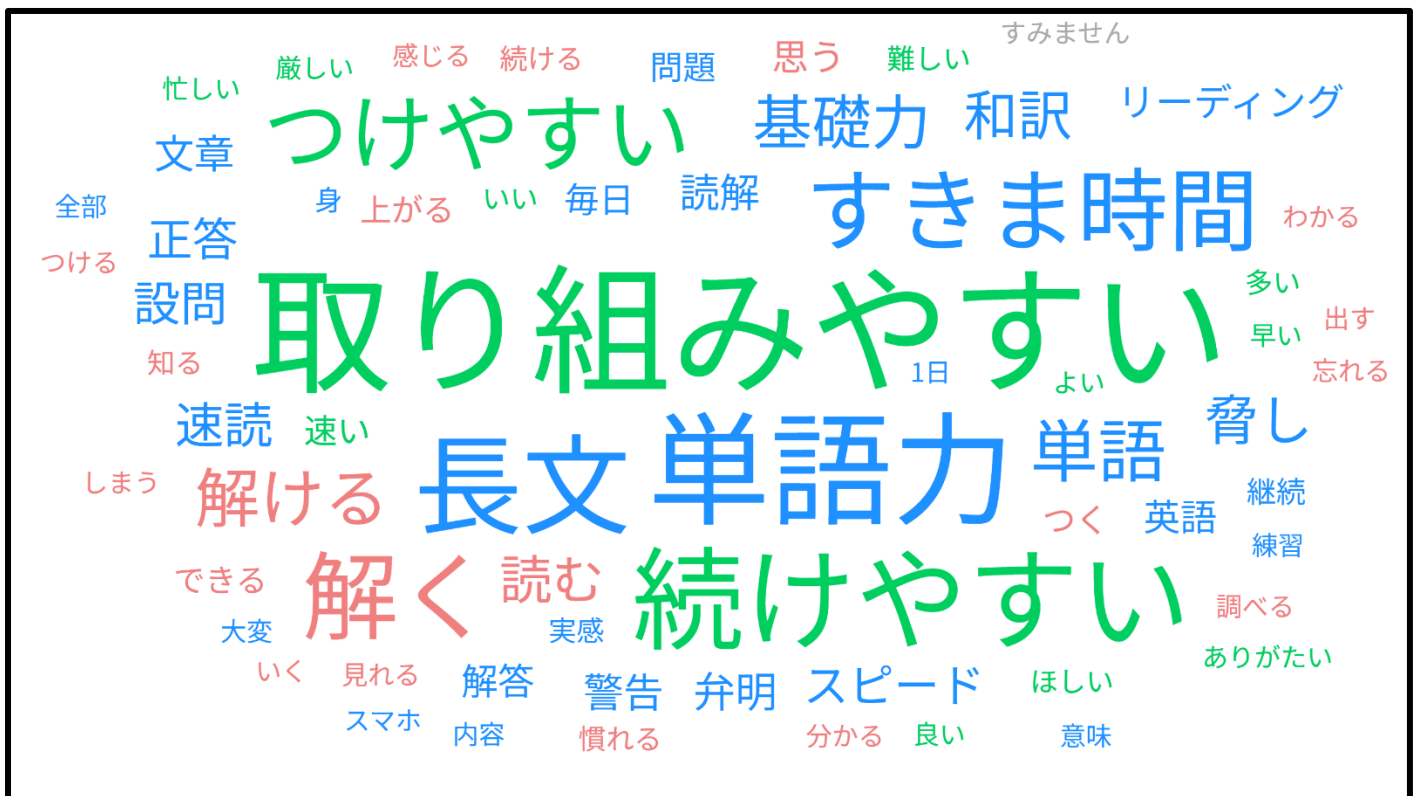


1 日1長文の生徒の感想 ～生徒のコメントの AI 要約～

この文章は、英語の長文読解に関する学習体験や感想を述べたもので、以下の 5 つの重要なポイントが含まれています。

1. ****読解力の向上****: 「毎日長文をすることで読む力がついてきていると思うので良いと思う。」学習を続けることで、読解力が向上していると実感している。
2. ****単語力の強化****: 「知らない単語が多く意味があまりわからないが 4 択だからなんとなくで正答することが多い。」新しい単語に出会うことで単語力が向上しているが、理解が難しいこともある。
3. ****学習の継続性****: 「継続することでより力をつけられると思う。」毎日続けることの重要性を感じており、継続することで実力がつくと考えている。
4. ****学習環境の改善要望****: 「内容はいいけど、もっとマーカーとか印をつけやすくしてほしい。」学習ツールに対する改善点を挙げており、使いやすさを求めている。
5. ****時間制限の効果****: 「時間内に解くという大切なことを身に着けることができ、いろいろな文章を読んで読解力やあまり知らない内容を読んで知識をつけられたかなと思いました。」時間制限があることで、集中力が高まり、学習効果が上がっていると感じている。全体として、英語の長文読解に取り組む中での成長や課題、改善点を述べており、学習の継続が重要であることを強調しています。

ワードクラウド



AI 活用事例2：[1学年 AI による英作文の添削]

主な活用場面: 論理表現 I の教科書の英作文時に使用。

完成した問題(生徒画像が実際に目にする画面)

解答時間
19分
Time Limit

あなたが最近行った旅行について英文を書きなさい。次の3つの情報を含む文にしてください。

- ・どこにいきましたか？
- ・なぜそこに行きましたか？
- ・何が一番楽しかったですか？

解答入力欄

保存

(単語数: 0語)

テストを終了する

解答入力後の画面(生徒画像が実際に目にする画面)

あなたの解答

I traveled Tokyo to meet my sister who lives Tokto.
I went to desney land.
It is fun.

(単語数: 18語 - 文字数: 68語)

AI文法・スペルチェック

1. Tokyo → to Tokyo
・【前置詞の誤り】動詞'traveled'の後には目的地を示すために前置詞'to'が必要です。

2. Tokto → in Tokyo
・【前置詞の誤り】場所を示す際には前置詞'in'を使います。

3. desney land → Disneyland
・【スペルミス】正しいスペルは'Disneyland'です。

4. It is fun. → It was fun.
・【時制の誤り】過去の出来事について述べているので、過去形を使うべきです。

AI問題テーマ評価

1. 【テーマ】 旅行の目的地、理由、楽しかったことが含まれており、テーマに対して適切な回答となっている。

2. 【文章構成】 情報は含まれているが、文が短く、詳細が不足しているため、文章構成がやや単純である。

改善ポイント

1. 【詳細の追加】 旅行の詳細や感想を追加することで、文章をより豊かにすることができます。

2. 【文のつながり】 文をつなげる接続詞やフレーズを使うことで、文章全体の流れを良くすることができます。

解答例

I traveled to Tokyo to meet my sister who lives in Tokyo.
I went to Disneyland.
It was fun.

私は東京に住んでいる姉に会うために東京に旅行しました。
私はディズニーランドに行きました。
それは楽しかったです。

音声再生

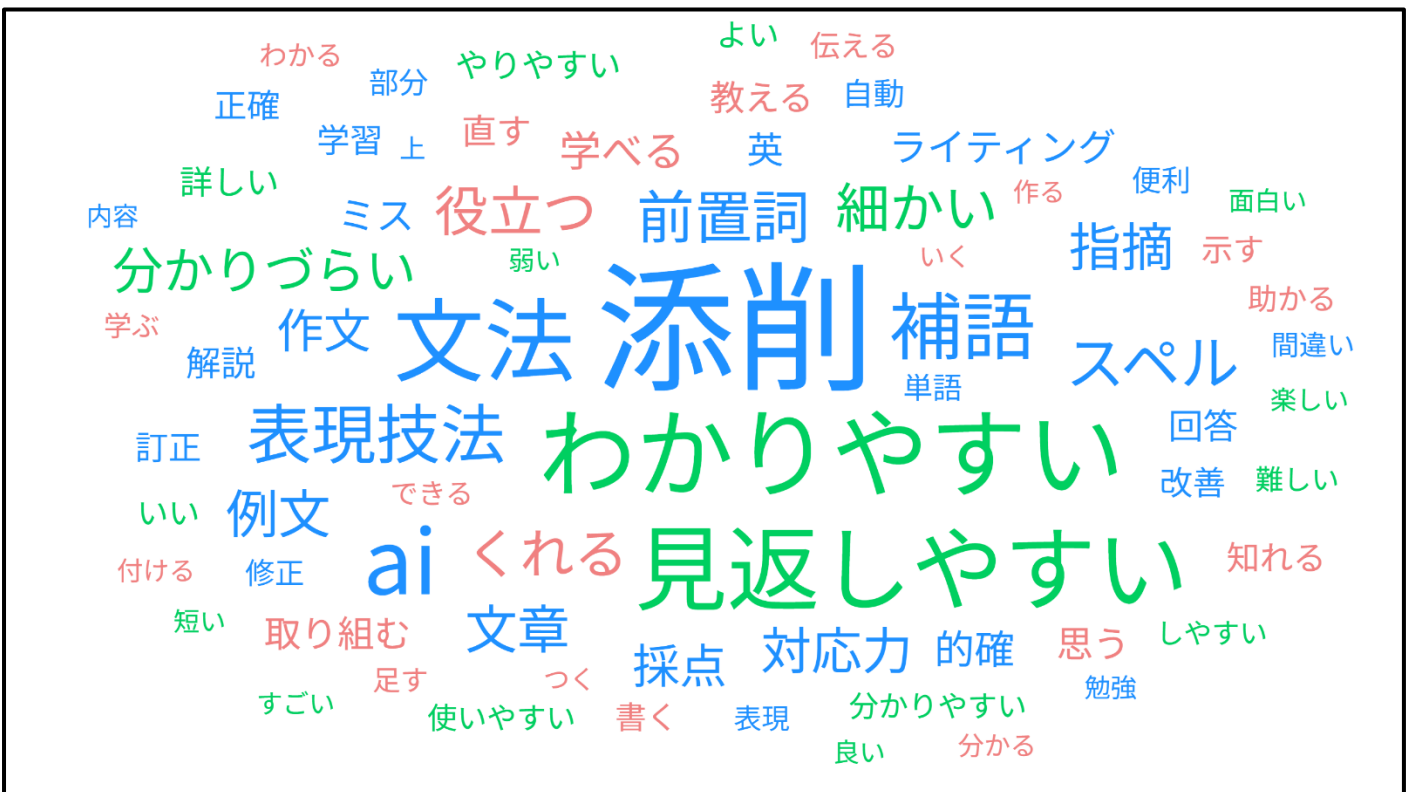
テキストコピー

AI 英作文の生徒の感想 ～生徒のコメントの AI 要約～

この文章は、AI を活用した英作文の添削に関する感想や意見を述べたもので、以下の 5 つの重要なポイントが挙げられます。

1. ****学習の効率性****: 「自分の間違いを指摘してより良い文章にすぐに変えてくれるから、効率よく学習できるのがすごくいい。」AI による添削が学習の効率を高めていることが強調されています。
2. ****具体的な改善点の提示****: 「改善点を具体的にあげてくれてわかりやすいです。」AI が具体的な改善点を示すことで、学習者が理解しやすくなっています。
3. ****文法やスペルミスの指摘****: 「誤字脱字、文法ミスなどわかりやすく教えてくれていいと思います。」AI が細かいミスを指摘することで、学習者の理解が深まることが述べられています。
4. ****新たな表現技法の習得****: 「たくさんの表現技法を学べたり、内容不足を指摘してくれるので、よりよい文章ができるようになったのかなと思いました。」AI の添削を通じて新しい表現技法を学ぶことができる点が評価されています。
5. ****学習の楽しさ****: 「AI を活用して学習できるのは面白いし楽しい。」AI を使った学習が楽しいと感じることが、モチベーションの向上につながっていることが示されています。全体として、AI による英作文の添削は、学習者にとって非常に有益であり、効率的かつ楽しい学習体験を提供していることが強調されています。

ワードクラウド



◆2025 年度 バ 札幌総合学力テスト1年生7月記述 度数分布 過去年度(学校内比較)

<設定>コース・教科・科目：英語計										
年度	2021		2022		2023		2024		2025	
学校名	札幌啓成		札幌啓成		札幌啓成		札幌啓成		札幌啓成	
学校コード	01106		01106		01106		01106		01106	
学年	高校1年生		高校1年生		高校1年生		高校1年生		高校1年生	
回	1年7月記述		1年7月記述		1年7月記述		1年7月記述		1年7月記述	
コース・科目	英語計		英語計		英語計		英語計		英語計	
受験人数	316		316		311		320		317	
平均点	40.4		35.4		36.8		38.9		33.9	
標準偏差	11.1		11.2		12.2		11.5		9.8	
平均点偏差値	51.0		50.9		51.5		51.8		52.0	
満点	100		100		100		100		100	
偏差値(人数)	単純	累積	単純	累積	単純	累積	単純	累積	単純	累積
80～										
78	1	1	1	1						
76		1		1			1	1	1	1
74	1	2		1				1		1
72	2	4		1	1	1	1	2	2	3
70	3	7	2	3	1	2	1	3	3	3
68		7	2	5	2	4		3	1	4
66	3	10	2	7	4	8	4	7	2	6
64	4	14	2	9	7	15	6	13	4	10
62	13	27	8	17	9	24	5	18	6	16
60	8	35	13	30	12	36	13	31	10	26
58	10	45	10	40	20	56	22	53	23	49
56	20	65	27	67	28	84	22	75	24	73
54	35	100	25	92	19	103	43	118	33	106
52	31	131	31	123	30	133	33	151	52	158
50	31	162	54	177	38	171	41	192	40	198
48	37	199	35	212	30	201	36	228	34	232
46	33	232	27	239	48	249	30	258	36	268
44	41	273	31	270	27	276	32	290	28	296
42	23	296	19	289	21	297	15	305	11	307
40	11	307	18	307	11	308	10	315	4	311
38	8	315	7	314	3	311	3	318	4	315
36	1	316	2	316		311		318	2	317
34		316		316		311	2	320		317
32		316		316		311		320		317
30		316		316		311		320		317
～30		316		316		311		320		317

GTZ での比較

スタサポ4月入学時
S～Aゾーン累計数
(国公立大学合格レベル)

国語：117名

数学：115名

英語：55名



7月模試 GTZ
S～Aゾーン累計数
(国公立大学合格レベル)

国語：127名

数学：85名

英語：93名

学校教育に広がる

1人1台端末
活用さまざま

国のGIGAスクール構想 1人1台端末や高速大容量の通信ネットワークなどの学校の情報通信技術(ICT)環境を整備・活用することによって、教育の質を向上させ、子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現すること

小中学校 公費で用意し、貸与している

高校 各家庭で購入し、学校に持参する。(経済的な理由などにより学校が貸与する場合もある)



ICT活用 教育現場で進む

学校での情報通信技術(ICT)の活用が進んでいる。小中学校では児童生徒が健康調査やリポート提出にノートパソコンを使うなど「1人1台端末」が定着。高校では効果的な学習のための生成AI(人工知能)を導入しているほか、国語表現でイラストを使った詩を作成するなど幅広い教材で活用している。教育現場で欠かせなくなっているデジタル端末活用の現状を探った。

国のGIGAスクール構想 高校ではさらに活用が進んでいる。10月末に札幌啓成高校で行われたAI活用に関する授業研究会ミナリ(北海道教育委員会主催)では、同校の英語や探究などの授業が公開され、オンラインを含め道内の教員約50人が見学した。

「国語八幡宮が建てられた理由を分かりやすく教えた。生徒が歴史の建造物を取り上げ、解説を英作文する英語の授業。1年の女子生徒が自身のパソコンでAIに質問し、回答を手元のプリントにメモしながら英文を自分で考え、パソコンに入力していく。作成した英文は、AIが瞬時に文法とスペルをチェックしてくれる。同校の竹本浩平教諭は自身のパソコンで、別の生徒の添削結果を模倣してスライドで映して共有し、「建築物が主語の場合、は受動態を使うのが正しい。同じように共通して見られます」と全員に呼びかけた。

手書きの生徒の回答を手作業で一枚ずつ添削する従来の方法では、ここまで展開の早い授業は難しい。竹本教諭はこの英語の授業で黒板を使うこともなかった。

生徒が課題を見つけて解決を考える、総合的な探究の時間でも、AIを使った授業が行われた。民族共生に関する授業では、外部講師による授業内容を踏まえ、今回は班ごとに掘り下げるテーマについてAIがセミナーをもちいた。セミナーに参加した札幌啓成高校の小田英樹教諭は「人が教えることAIができることを両輪で探っていくことが大切で、勉強に

健康調査や宿題提出 高校ではAI導入も

を奨励し、自らを見つめ直す機会にしようという試みもある。札幌東商業高では、国語の授業で詩の創作にイラストや画像を組み合わせた「イラスト詩」を作成している。

3年生の国語表現探究の授業の一環で、78人が取り組んだ。空虚な内面を映した金子光晴の詩「くらげの唄」を読んだ後、「自分が何かになりきって表現してみよう」というテーマで、使用料のかからないフリー素材のイラストや画像を用い、自作の詩とともに数枚のスライドにまとめた。連続して見る動画のような作品に仕上がっている。

3年の中野玲音さん(18)は「つき」という題名で詩を書いた。夜空に三日月が現れて、夜空にり、再び欠けて消えていく様子とともに「月の満ち欠けと私の心は比例する」と表現した。

中野さんは「周りの生活の中で自分の気持ちでどう動いていくか、月で表そうと思った」と話

か月とリンクした自分の気持ちの変化が表現できると振り返った。

他者の内面理解を目指す学習で、同校では昨年からの取り組みである。国語の恒川清伸教諭は「詩とイラストを組み合わせると、気づきやすさや抵抗感が薄れて表現しやす

取り組みに差 支援体制強化

さまざまな教科で用いられる情報通信技術(ICT)だが、活用は一律に進んでいるわけではない。パソコン操作が得意な教員もいれば不慣れな教員もいることから、北海道教育委員会は支援体制を強化している。

道教委では校務や授業での効果的な運用を目指す、2024年度にICT支援事業を始めた。ICT関連業者や民間委託し、同年度は道内すべての道立校を訪問。クラスの課題提出の管理や共有などができる「クラスルーム」の活用といった19項目のメニューを用意す。

(支那の香)

著作権などの理解度向上にも期待を寄せる。動画などをさまざまなものになりきり、情感豊かに自分の内面を表した同校のイラスト詩の作品は16日まで、江別図書館2階で公開している。(支那の香)



当社は、個人情報について適切な取り扱いが行われている
企業に与えられる「プライバシーマーク」を取得しています。

プライバシーマークを取得している企業は、個人情報保護法で定められた義務を遵守していることに加えてより高度な個人情報保護の取り組みを行っていることが証明されます。

教材詳細はオフィシャルサイトの〈プロモーション動画〉をご覧ください。

Brains e Learning

株式会社 ニューブレイン・アライアンス

Tel 011-633-5400 FAX 011-633-5401 <https://www.newbrain.co.jp>

札幌市中央区北 2 条西 10 丁目北 2 条西 10 丁目 2-7 Wall Tower 502

